

テーマ

- ①熊本市の子育て支援において改善してほしいこと
②共働き・共育てが広がるために必要なことは？

大テーマ	ご意見	回答 ※(担当局)が記載されているものについては、意見交換後に市の考え方を示したものです。
1 子育て	現在、山鹿市の企業に勤めている。以前は熊本市内の企業に勤めており、こどものうち上 の2 人は以前の職場で育休を取らせてもらったが、現在の職場で3人目の育休を取れるのかわからない状況である。 熊本市の子育て支援優良企業の話があったが、職場の理解が広がるよう周辺市町村とも連携を広げていただきたい。	【市長】 <u>・子育て支援については、市外の企業等と、良い意味で競争しながら、相乗効果でお互いに良くなる必要があると考えている。</u> <u>・結婚・子育て応援サイトについては、今後、サイトをより良いものにしていくために、ぜひ、たくさんのご意見をいただければありがたい。</u> <u>・病児・病後児保育の制度については、制度はあっても利用が難しい場面もあるという声をいただいたので、今後は利用促進も図っていきたいと思った。</u> (こども局) 周辺市町村への「子育て支援優良企業」認定事業に関する情報提供についても検討していく。
1 子育て	白川小校区で一番近い児童室が大江小校区にあるが、小学校では、基本的には校区外にこどもたちだけでは出てはいけないことになっている。 白川小学校の横には公園があるが、不特定多数の方がいて、以前、不審者の問題もあったので、誰かが見守らないといけない状況である。 親としては安心してこどもたちだけで遊べるような場所が各校区内にできるとよいと思う。	(こども局) 熊本市内には、児童館・児童室、こども文化会館などこどもたちだけで遊べる施設があるが、市内全ての各校区内には設置されていない状況である。 現在、遊び場などを含むこどもたちの居場所について調査中であり、いただいたご意見や調査結果をもとに、必要な取組について検討していく。
1 子育て	病児・病後児保育を充実させていただきたい。こどもが急に熱を出し、病院に連絡をしても、病児・病後保育は順番待ちであったり、空きがないと言われたりすることがある。 簡単に仕事を休むことができればいいが、私も妻も急に休むことが難しい時もあるし、どちらも休みを取れないときはどうするかについては答えも出ておらず、綱渡り状態の中、子育てと仕事の両立について悩んでいる。 ワンストップで病児・病後児保育も対応できる仕組みがあるとありがたい。	(こども局) 本市にお住まいの方は、市内の16か所(企業主導型含む。)及び近隣8自治体(宇城市、合志市、菊池市、菊陽町、大津町、益城町、山鹿市、玉名市)の施設を利用可能であるため、ご希望の施設に事前に登録いただき、活用いただきたい。 なお、施設16か所のうち本市が委託している8施設については、「熊本市結婚・子育て応援サイト」で空き状況を閲覧することができる。 また、事前登録が必要であるが、お子様の急な発熱時に送迎や医療機関の受診を代理で行うファミリー・サポート・センター事業も利用可能であるため、そちらもぜひご利用いただきたい。 なお、子育て世代に対するサービスの利便性向上については、いただいたご意見なども参考としながら研究していく。
1 子育て	福岡から熊本市に引っ越してきて2年半になる。福岡には、中学校の空き教室を2つくらい活用して、子育て中の方やこどもだけでも遊びに行くことができるような場所があった。そこにはボランティアで保健師の方もいて、学校が開いている朝9時から夕方5時くらいまで開いていた。 ぜひ、熊本市にもこういう場所をつくってもらいたい。 また、そのような場所においては、スタンプラリーのようなものをつくり、例えば、遊びに来てポイントを貯めるとおむつと交換できたりするなど、熊本市において既にいろいろ発信しているポイント事業の中で、そのような取組も考えてほしい。	(こども局) スタンプラリー形式による育児用品との交換については、福岡市で類似の取組が行われていると承知している。今後、他都市の取組事例について調査を行うとともに、本市で導入した場合の効果等についても研究を行っていく。 また、本市には児童館・児童室、こども文化会館など、小学生以上のこどもだけで遊ぶことができる施設があり、朝9時から夕方5時まで開館しているため、ぜひご利用いただきたい。
1 子育て	子育て支援優良企業認定の話もあったが、子育てに協力的な企業に対しては、金銭も含め行政からもっと支援があっても良いのではないかと思った。 もっと子育てしやすい環境づくりを進めてほしい。	(こども局) 子育て支援優良企業等に対する支援のあり方については、本事業における課題としても認識しており、今後も検討を進めていく。

大テーマ	ご意見	回答 ※(担当局)が記載されているものについては、意見交換後に市の考え方を示したものです。
1 子育て	各家庭に対して直接支援するよりも、小学校の先生や保育園の保育士さんたちの数自体を増やしたり、給与に反映させたりする施策にお金を使う方が、結果的に子育て世帯にはありがたいと思う。	(こども局) 待機児童及び保留児童の解消や保育の質の向上を図るうえで、保育士の確保は大変重要な課題だと認識している。 賃金向上をはじめとした処遇改善に取り組むことで、保育士確保に努めていく。 (教育委員会) 小中学校において、育休や病休の正規教員を代替する臨時的任用教員が不足し、現在、教員の未配置が生じているため、臨時的任用教員の確保に努めるとともに、正規教員も積極的に採用していく。
1 子育て	結婚・子育て応援サイトが見にくい。使い勝手が悪すぎるので、アクセスしていても途中で断念する人たちが非常に多いのではないかと思う。もっとユーザー目線で作った方がいいと思う。	(こども局) 当サイトでは、「シーン別」、「タイミング別」といった分類を設け、利用者のニーズに応じた情報提供ができるよう努めている。 しかしながら、情報が多く見づらいといった意見もいただいていることから、カテゴリーの分け方や構成についても、さらなる工夫が必要であると考えており、今後の見直しについて検討していく。
1 子育て	うちの3人目のこどもと同じタイミングで、妻の同級生が出産した。その方は1人目だったので、産後ケアなどのサービスが受けられることを知らなかったと言っていた。うちは3人目なので知っていたが、そのようなサービスが受けられることを知らない方もいると思う。 そのような方たちに情報が行き届くように、市ホームページ等による案内を見やすくするような工夫をしてほしい。口コミのようなものがあると参考になって助かると思う。 また、例えば、家事を手伝ってくれるようなサービスがあると思うが、「それって私も利用しているの?」と思ったときに答えてくれるものがないので、そこも課題だと思う。 市ホームページ等による案内が分かりにくく、必要なサービスが受けられずに妻がまいってしまうと家族としても大変なことになるし、代わりに私たち父親がサイトを見るときにも、アクセスしやすく見やすい、わかりやすいサイトでないと役に立つことができないので、広報のやり方や見せ方の改善をお願いしたい。	(こども局) 現在、本市で実施しているサービスの認知度向上にあたっては、ホームページ等での情報提供だけでなく、熊本市公式ラインや、今年度に運用開始予定である「子育て応援アプリ」を活用した、プッシュ型広報の強化も必要であると考えている。 また、結婚・子育て応援サイトの見づらさの改善にあたっては、カテゴリーの再整理や構成の見直し等について検討を進めるとともに、より多くの方に当サイトの存在を知っていただけるよう、引き続きサイト自体の周知にも取り組んでいく。
1 子育て	3人目のこどもが産まれたときに育児休暇をとり、子育てに関する大変さを実感して、1人目、2人目のとき、妻も大変だったんだろうなと思いをめぐらせたところである。 ただ、育児休暇を取ることができたのは、恵まれた職場環境にいたからだと思うし、育児休暇を取りたいと思われてる方も環境的になかなか取りづらいことがあるのではないだろうか。 育児休暇を取ると、本当に父親としての自覚を持てるし、喜びを感じられることがたくさんあるので、ぜひ、できるだけ多くのお父様方にも取っていただきたいと思う。希望する人全員が育児休暇を取れるようにするためには、制度の整備だけでなく、各職場における人材の充実など、誰かが休んでも仕事のフォローができるような体制を構築していくことが必要だと思う。	(こども局) 現在、本市では安心して子育てと仕事の両立ができる、働きやすい職場環境の整備を進める企業を「子育て支援優良企業」として認定している。 審査項目には、育児休業の取得実績や、育児休業を取得しやすい雇用環境の整備、育児休業等の制度についての周知等を定めており、今後はこれら以外にも、育児休業中の職員の同僚支援に関する項目の追加についても検討を進めていく。
1 子育て	今はどちらかという、こどもを産んだら経済的にも大変だから結婚しないという人が多いように思う。 少子化対策という観点から、結婚してこどもができたら、どの程度のお金がかかるのかが明確になったり、こどもがいることで人生がより充実するといった知見も得られたりするような、こどもを持ってからというよりも、こどもを持つ前の段階での支援も、もう少しあれば良いと思う。	(こども局) 令和5年度に本市で実施したアンケート調査において、結婚したいという希望が叶いやすくなる方法として、「結婚後の生活を具体的にイメージできるようになること」と回答した方が2番目に多い結果(約35.6%)となったことから、若者に対する結婚・出産等に関する情報提供は、少子化対策という観点からも非常に重要であると考えている。 本市では、今後の人生設計や結婚後の生活について考える機会を提供するために、市立高校生を対象にライフプランに関する情報提供を行っている。 今後は、高校生のみならず、若い世代が結婚後の生活を具体的にイメージしやすくなるよう、ライフプランを考える機会の提供方法や内容等について検討を進めていく。
1 子育て	子育てに関して、親が勉強する機会が非常に少ないと感じる。誰にでも共通する正解はないはずなので、その子自身が幸せになりさえすれば、それが正解だとは思うのだが、手探りで子育てする中、産後うつになったり、どうしていいかわからないこともある。 出産前や、出産後に子育てがうまくいかないなど落ち込んだときなどに、「こういうふうに声をかけていくと、こどもたちが笑顔になりやすいですよ。」など具体的なアドバイスをもらえるような、気軽に相談できる所があると事前にわかっているならば、心に余裕が生まれる。例えば、沐浴の仕方などは教えてもらえるところはあるが、未就学児から小学生、中学生に上がっていく成長段階でのサポートが少ないように感じる。	(こども局) 熊本市内の子育て支援センターや児童館、地域の子育てサークル等では、親子運動や子育て講話、食育などの講座に専門の講師を派遣する「乳幼児ママ・パパ教室」を開催している。今後、新型コロナウイルス感染症の影響で停止していた、保育園の園児の様子を見学したり触れ合ったりすることができる「プレママパパ教室」の再開を予定しているので、その際はぜひご参加いただきたい。 また、子育てに関するご相談は、令和6年度に各区の保健こども課に設置された「こども家庭センター」や「子育て支援センター」等でお受けしているので、お気軽にご利用いただきたい。

大テーマ	ご意見	回答 ※(担当局)が記載されているものについては、意見交換後に市の考え方を示したものです。
1 子育て	私も育児休暇を取った時に、自分も父親1年生みたいな状態なので、何が正しいかわからずに子育てをしていた。子育て支援センターにも行ったが、周りはお母さんばかりでなかなか子育ての悩みなども相談しづらい状況だった。そういう時に相談をできる相手がいないという辛さを感じることも多かったので、男性も父親同士で横につながれる何らかのツールがほしい。 お父さん向けの支援のサイトなど、女性だけでなく男性に届くものもぜひつくってほしい。	(こども局) 育児休暇を取得される父親が増えてきた現状もあり、熊本市内の子育て支援センターや児童館・児童室、こども文化会館や街なか子育てひろば等の子育て支援施設では、父子で利用される方が増加している。その一方で、母子での利用も多いため、父親が相談しづらい雰囲気もあるかもしれないが、ご相談は施設の保育士や児童厚生員等が対応するので、お気軽にお声かけいただきたい。
1 子育て	育児が大変になるタイミングは母親の育休が終わって職場復帰したとき、こどもを保育園に通わせ始めるとき、こどもが小学校に入学するときなどいくつかあると思う。 そのように負担が増す時にも、父親が育児休暇を取って、育児に専念するような仕組みがあると良い。	(こども局) 本市では安心して子育てと仕事の両立ができる、働きやすい職場環境の整備を進める企業を「子育て支援優良企業」として認定している。審査項目には、男性の育児休業に関する項目も定めており、社会全体で育児等を支える環境づくりに取り組んでいる。 (文化市民局) 企業等がワーク・ライフ・バランスを推進する意義やメリット、働き方や生き方が多様化する現代に対応できる組織づくりに関する情報提供の場として、男女共同参画センターはあもにいでは、テレワーク、男性の育児休暇について県内の実践企業の実例を聞くセミナー等を開催している。働き方改革を促進しワーク・ライフ・バランスを図っていくため、引き続き、市民や事業者へ向けて、その意義や成果について周知するとともに、社会全体で育児等を支える環境づくりに取り組んでいく。
1 子育て	病児・病後児保育の話があったが、共働きのご家庭では、どちらかが仕事を休む必要が生じたときに、父親と母親のどちらが休むのかで、せめぎ合いが生まれることもある。 このようなことを契機に家庭の不和が生じかねないとも思うので、なんとか解決策が見い出せればと思う。	(こども局) 本市にお住まいの方は、市内16か所(企業主導型含む。)及び近隣8自治体(宇城市、合志市、菊池市、菊陽町、大津町、益城町、山鹿市、玉名市)の施設を利用可能であるため、ご希望の施設に事前に登録いただき、活用いただきたい。なお、施設16か所のうち本市が委託している8施設については、「熊本市結婚・子育て応援サイト」で空き状況を閲覧することができる。 また、事前登録が必要であるが、お子様の急な発熱時に送迎や医療機関の受診を代理で行うファミリー・サポート・センター事業も利用可能であるため、そちらもぜひご利用いただきたい。 なお、子育て世代に対するサービスの利便性向上については、いただいたご意見なども参考としながら研究していく。
1 子育て	男性向けの子育てに関する勉強会のようなものがあると、大変嬉しい。	(こども局) 熊本市内の子育て支援センターや児童館、地域の子育てサークル等では、親子運動や子育て講話、食育などの講座に専門の講師を派遣する「乳幼児ママ・パパ教室」を開催しているので、ぜひご参加いただきたい。 (文化市民局) 男女共同参画センターはあもにいでは、家庭生活や地域活動など、仕事以外の生活への参画支援を目的として、父子を対象とした講座も開催しており、男性が子育てに参画する契機や、親子のふれあいの機会として好評いただいている。
1 子育て	夫婦間のコミュニケーションに関して、アメリカでは、カップルカウンセラーという専門家が実際にカップルや夫婦から話を聞いて、関係性を継続的に支援してもらえると聞いた話を聞く。夫や妻いづれかに対応する支援だけでなく、夫婦で受けられるようなカウンセリング支援があるとありがたい。	(こども局) 夫婦の関係性に関する支援については、子育て支援のあり方について検討する中で参考とさせていただく。
1 子育て	妻の両親と二世帯で住んでいる。世帯収入がどうしても多く判定されてしまうため、3歳ぐらいまではと保育園に預けずに頑張っている。ぜひ保育料の見直しを行ってほしい。	(こども局) 保育料については、国が定める上限額の範囲内で、保護者(父・母)の市民税額の合算額により決定されるため、保護者(父・母)に一定の収入が無い場合等を除き、同居祖父母が保育料の算定に影響することはない。 本市の保育料の額については、保護者の負担軽減の観点から、国が定める上限額より低い額で設定している。 保育料の負担軽減等の措置については、今後、国のこども・子育て政策の動向も踏まえながら、検討していく。
1 子育て	コンサートやミュージカルなどの催事が好きで以前はよく出かけていたが、こどもが生まれてからは全然行くことができていない。子連れでも、そのようなイベントに参加できるような仕組みがあれば良いと思う。	(こども局) 本市では、こどもや子育て当事者の視点に立ち、その最善の利益の実現に向けた「こどもまんなか」の取組を推進している。 現在、「こどもまんなか」の周知や、熊本博物館における乳幼児と保護者が一緒に参加できるプラネタリウム鑑賞会の実施などに取り組んでおり、今後も、こどもや子育て中の方が気兼ねなくさまざまな制度やサービスを利用できるような取組の実施や機運の醸成に努めていく。

大テーマ	ご意見	回答 ※(担当局)が記載されているものについては、意見交換後に市の考え方を示したものです。
1 子育て	父親としての、情報交換の場があるとありがたいという意見には、大変共感する。また、多くを経験して、自ら情報発信をしたいという方もいらっしゃると思う。 今回の「市長とドンドン語ろう！」の場もそうだし、自らの経験を語り合ってお互い助け合うような場があるとありがたい。ぜひこのような機会の提供をこれからも続けていってほしい。 また、こどもの意見についても発言する機会を設けていただきたい。	(文化市民局) 本市では情報誌「はあもにい」を年2回発行しており、実際に育児休暇を取得した男性へ取材を行うなど周知に努めている。今後も、関係機関等と連携して男性の子育て等に関する情報発信も行っていく。 (こども局) 本市のこども施策を策定する上で、こどもや子育て中の方々など、当事者の意見を聴くことは非常に重要だと認識しており、今後もこのような取組を行っていく。
1 子育て	妻も私も働いている共働きの家庭である。こどもが小学生で児童育成クラブを利用しているが、どうしても、こどもの迎えが妻に偏ってしまっている。公的な側面があるサービスである以上、対応時間が限られていたり、ある程度の費用がかかるのも理解しているが、共働き・子育てがしやすい環境をつくるという意味では、対応時間や費用に関する融通が利くように、もう少し方策を模索していただけるとありがたい。 児童育成クラブのようなサービスについては、公的なものではなく、民間のものでも良いと思う。民間も含め、そのようなサービスがより増えてくると、選択肢もサービスの幅も広がると思う。	(教育委員会) 児童育成クラブについて、本市では学校や関係機関との調整、支援員の確保を図り、令和3年10月から18時までの開設時間を19時までとし開設時間の延長を実施してきた。 19時以降や朝の開設時間の拡大については、小学校教室やコミュニティセンターを育成室として開設していることから、関係機関との調整が必要になることや、さらなる支援員の確保が必要になること等の課題があるため、今後の社会情勢や利用者ニーズを踏まえながら、検討を行う予定である。
2 教育	① 部活動について、教員の負担を減らすということで、民間の方に移行している状況もあると思うが、まだまだボランティア精神に頼っている部分が非常に大きいと思っている。指導者の方が自分の仕事時間を削ってまで地域のこどもたちにスポーツを教えるとなったときに、その対価があまりにも少ないし、ボランティア精神ですっとやり続けなければならない。ただ、指導者の対価に還元するために月謝を上げるとなると、どうしても家庭間での経済格差により部活動ができない家庭が出てきてしまう。やはり、まだまだ預かり保育のような感覚で部活動にこどもを通わせている家庭もあるので、市から指導者に対する補助の仕組みがあれば良いと思う。そうでないと、指導者を確保することができないし、指導者がいないことで、こどもたちが選択できるスポーツの幅も狭くなってしまう。 市からのサポートもあると、スポーツを通じた子育てにもつながるのではないかと思いますので、指導者に対しての補助も考えていただきたい。 ② 外部顧問の方よりも、できれば学校の先生が、こどもたちの学校生活を見た上で指導していただきたい。児童や生徒のことも、学校の先生の方が外部の顧問より分かっていらっしゃるのではないかと思います。 ③ 妻が教員であり、部活動の負担が相当なものであるということを見ているので、もっとバランスを考えて実施していただけるとありがたい。教員の方々にも、皆ご家庭がある。 一方で、外部顧問の場合は、その地域に対応できる指導者がいればいいが、いない場合は、地域間での格差が生じてしまうので、なかなか難しい問題だと思う。こどもがいずれ部活動をするようになった時に、どの部活動に興味を持つかは、後々の生涯スポーツにも関わってくるので、できれば、いろいろな選択肢があると良いと思う。顧問を引き受けてくれる先生に任せる方法でも良いと思うが、なるべく部活動の数や質が担保される方法が良いというのは、子育て中の親の率直な思いである。	(教育委員会) 本市では、外部有識者等からなる熊本市部活動改革検討委員会において、10回の協議を経て、令和6年3月に「新しい学校部活動の在り方について」の答申が提出された。 答申の基本方針の中で、 「学校部活動には教育的意義があることや地域の受け皿の確保が見通せない状況であること等を踏まえ、教職員や地域人材で指導を希望する者が指導することを前提に、本市の学校部活動は今後も継続させる。」とある。また、4つの基本方針として、 【基本方針】 Ⅰ こどもたちのスポーツ・文化芸術活動の充実を図る Ⅱ 学校部活動の教育的意義や役割を保持する Ⅲ 指導者の確保を含む運営体制の充実を図る Ⅳ 持続可能な運営費用を確保し、全ての指導者に適正な対価を支払う が挙げられている。 本市では、この答申を踏まえ、現在、新しい学校部活動のあり方を検討中であり、方針を決定する予定である。 ①については、基本方針のⅣにあるように、これまで教職員のボランティアに頼っていたことから見直しを図り、指導者には適正な対価を支払うように答申で提案されている。また、新たに発生する費用については、機会の格差を生まないよう、経済的に困窮する家庭や多子世帯等への支援を行うことや、指導に係る費用について、公費負担と受益者負担の在り方を整理することを求められており、現在、検討を行っている。 ②については、学校部活動については、長年教職員が中心となって運営しており、競技力の向上のみならず、教育的意義が大きいものであると認識している。 しかし、教職員の献身的なボランティアのみに頼ってでは、持続可能な運営は難しいことから、現在、教職員以外の指導者の増員を検討している。 また、基本方針のⅡにあるように、地域人材が指導者となる場合においても、研修体制等を充実させ、複数指導体制を構築するなど、今までの学校部活動が培ってきた良さを継続し、持続可能な運営体制の整備を検討する。 ③については、基本方針の中で、「教職員や地域人材で指導を希望する者が指導することを前提に」としており、また、地域で格差が出ないように調整する必要があると考えている。 また、こどもがさまざまな選択肢を持てるように、自分の通う学校に希望する部活動がなくても隣の学校にある部活動にも参加ができる、「拠点校部活動」や、これまでになかった活動として親しむことや楽しむことを中心とした「チャレンジクラブ(仮称)」の創設なども提案されており、創設に向けて検討しているところである。 さまざまな選択肢から選べるように、指導者の確保は必要であり、具体的施策にもあるように「大学生、公務員、退職教員、民間企業従事者等の地域人材を指導者として確保するための人材バンク」について、教育委員会と市長事務部局で連携し設置すること等を検討していく。

大テーマ	ご意見	回答 ※(担当局)が記載されているものについては、意見交換後に市の考え方を示したものです。
3 都市・交通	子育て中は車で移動することが多いが、熊本市内は渋滞がひどい。 渋滞が特にひどい時間帯は朝と夕方だが、市内中心部や健軍方面は時間帯に関係なく混雑している印象である。ぜひ渋滞緩和に取り組んでほしい。	【市長】 <u>・渋滞対策など、熊本がもともと抱えている課題を解決していくことも、子育て世帯の方々の支援に繋がることを、皆さんの意見を通じて感じた。</u> <u>・ハード面の整備も必要だが、車を運転する人に交通マナーを守ってもらうための取組の強化も、こどもの安全安心の面から必要なことだと考えている。</u> (都市建設局) 交通渋滞の解決には、道路整備を進めるだけでなく、交通手段を自家用車から公共交通へとリバランスすることで都市交通を最適化し、いわゆるベストミックスを構築していくことが必要と考えている。 具体的には、国帛市が連携して進めている「2環状11放射道路」や、本市が進めている熊本西環状道路などの整備に取り組んでいる。さらに、「バス・電車無料の日」による公共交通の利用促進に加え、市電延伸の検討や「シェアサイクル」による公共交通で移動しやすい環境構築などにも取り組んでいる。 また、ご意見にあるとおり、朝夕の通勤ラッシュ時に移動が集中することも交通渋滞の要因と想定される。そのような中、昨今では、移動を伴わないリモートワークが普及するなど働き方も大きく変化していることから、リモートワークや時差出勤など、ピーク時の移動削減に繋がる対策についても、さらに検討を進めていきたい。
3 都市・交通	自転車に関する道路交通法の改正など、自転車に関しては、ルール化の方が先行してしまって、道路整備が追いついていないように思う。 自転車が通る道があったと思ったら、中途半端な地点で急にその道が途絶えていることもあるし、原付でいう二段階右折をするような場所をこどもたちが理解しておらず、車が来てないから大丈夫だろうという感覚で渡ってしまい、それを車がよく見ていないことが原因で事故につながることもある。 道路整備が進み、自転車がもっと通しやすい環境になると、親としても、より安心してこどもたちを自転車に乗せられるようになると思う。	(都市建設局) 本市では、令和3年3月に策定した自転車活用推進計画に基づき、自転車道の整備や路面標示で自転車の通行位置を明示する整備を進めている。 ご意見をいただいたとおり、未だ整備が行き届かず、連続性が確保できていない路線もあるが、今後も自転車や歩行者、車それぞれが安全に通行できるよう、自転車走行空間の整備に努めていく。
3 都市・交通	家の近くに点滅信号の交差点があり、事故が多発している。その交差点をこどもたちが通学路として使っているので、こどもの登下校時、こどもの安全面を心配している。 このような地域からの声が警察にも提出されており、横断歩道の整備やカーブミラーの設置など少しずつ改善されてきたものの、やはり、点滅の意味などが車のドライバーに十分認識されておらず、黄色点滅だったら進行していいという誤った解釈により、こどもが渡ろうとしているのに車が止まらない場面を見かける。 新しい信号を取り入れることも視野に入れ、改善していただけるとありがたい。	(文化市民局) 熊本県内における歩行者と車両との間で発生した事故のうち、道路横断中の事故が約半数を占めており、交差点等における交通安全の徹底は重要であると認識している。 本市としては、これまで交通指導員による街頭指導のほか、運転手等に向けた交通ルールの遵守及び交通マナー徹底をすべく、市政だよりやラジオなどで周知してきた。 今後は、さらなる交通安全の啓発や運転マナーの向上のため、交差点等において歩行者と運転者が双方に手を前に出して合図を送りあう「てまえ運動」などについて広報に努めていく。 なお、信号機の取り付けなどについては、管轄の警察署へ情報提供する。
3 都市・交通	こどもが小さいのでベビーカーをよく使うが、電停によって待機スペースの幅が異なる。電停によってはベビーカーと人が乗ってギリギリの幅のところもある。また、市電に関しても、段差のある車両があったり、乗車口は広くても降車口が狭かったりするので、工夫してほしい。	(交通局) 電停の待機スペースの幅については、熊本市バリアフリーマスタープランにある「熊本市電停改良計画」をもとに、改良を行っている。また、既存車両の乗降口を改造することは困難であるが、令和6年度はバリアフリーに対応した低床電車を2台導入する。今後も低床電車の導入を予定しており、さまざまな世代が利用しやすい車両の更新を行っていく。
3 都市・交通	自転車で通勤しているが、自分は左側通行していても、前方から高校生や小さなこどもが横に広がって通行していたりする。非常に危険なので改善してほしい。	(都市建設局) 自転車の安全利用については、これまでも自転車安全利用教室や交通安全講演会など学校や警察、教育委員会と連携し周知啓発に取り組んできた。 また、令和5年度から自転車安全利用モデル校認定制度を設け、ヘルメット着用などの自転車の交通安全に取り組む学校を支援している。 今後も交通安全の推進に向け、取り組んでいく。

大テーマ	ご意見	回答 ※(担当局)が記載されているものについては、意見交換後に市の考え方を示したものです。
3 都市・交通	西区の城西小学校校区に住んでいる。最近、新しい道路が開通し交通量も非常に増えているため、安全のためにも、こどもたちも対象とした交通マナーの啓発が必要だと思う。	(文化市民局) 本市では各小学校において、新1年生を対象とした飛び出し注意や横断歩道の渡り方、3、4年生を対象とした自転車乗車時の交通ルールや交通マナーについて交通安全教室を実施しており、城西小学校でも本年度実施した。 今後も、こどもたちの安全を守るため、引き続き運転手等へ向けた交通マナーの啓発や小学校での交通安全教室の充実を図っていく。なお、ご家庭でも交通ルール等の大切さについて話し合えるよう、本市ホームページに交通安全に関する動画を掲載しているので、ぜひ、ご活用いただきたい。
3 都市・交通	西区にはのどかな風景が広がっていて、道路に電灯が少ない場所もある。こどもがある程度大きくなったら、暗い中をこどもだけで帰ることになるので、安全のためにも暗いところが少なくなるよう改善していったしてほしい。	
4 その他	子育て中の親にとって、子育ては「現在進行形」なので、行政のスピード感が圧倒的に大事だと思う。私たちも、子育てに関して今は大変だと思っていることを、2年後、3年後には忘れてしまっているかもしれない。結局、市長が就任された十年前の状況と、ほとんど変わってない状態なのではないかと思っている。 私たちが現在抱えている課題をスピード感を持ってクリアにしていけないと、自分たちのこどもが大人になったときに、こどもを持ちたいという考えにはならないと思う。 行政手続きについても、申請ひとつをとっても、紙の手続きが多いうえに、あちこちたらい回しにされる。このような状況は、抜本的に変えたほうが良いと思う。組織間で必要なデータにアクセスできるような方策を模索していただきたい。	【市長】 行政のレスポンスが遅く、それを待っている間に子育てのフェーズが変わってしまったということがないよう、できる限りスピード感を持って対応していきたい。 (こども局・総務局) 現在、原則全ての行政手続のオンライン化を進めており、市役所等に来庁いただかなくてもスマホ等から手続が完了する環境整備を進めている。 また、市役所等に来庁し、窓口で手続する場合でも、より簡潔に短時間で済むよう、引越しなどのライフイベントに伴う複数の手続が1か所で申請できる「書かないワンストップ窓口」等の実現に向けた検討を行っている。
4 その他	行政のさまざまな申請について、アプリひとつで行うことができるようにしてもらえると助かる。	(総務局) 現在、原則全ての行政手続のオンライン化を進めており、市役所等に来庁しなくてもスマホ等から手続が完了する環境整備を進めている。 また、熊本市公式LINEアカウントの基本メニューに電子申請のアイコンを表示するなど、行政手続が易く、簡潔に申請完了できるような工夫もしている。
4 その他	TSMCやインバウンド需要の増加により、熊本を訪れる外国人が増えている。 熊本市にも人を呼び込むということを考慮し、外国の方にも住みやすいまちだということをPRすることについても、こども政策の中に位置づけていただければと思う。	(政策局・こども局) 熊本市は、国際戦略において、国内外の誰もが訪れてみたくなる、住んでみたくなる、そして住み続けたいと思えるような「世界に選ばれる上質な生活都市」をめざし、在住外国人向けの支援をはじめとする多文化共生の取組を推進することとしており、今後も熊本市の良さを各種媒体を通じて、積極的にPRしていく。 また、多文化共生社会の推進に関しては、熊本市子ども輝き未来プランの中にも位置付けており、現在策定中のこども計画においても、同様の位置づけを行うよう関係各課と協議したいと考えている。